



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

軟膏とクリーム

湿疹や虫さされ等の皮膚の炎症をおさえる薬として塗り薬を使う機会があると思いますが、その種類は軟膏やクリームのほか、ゲルやローション、スプレーなどがあります。今回は、そのうちの軟膏とクリームの違いについて説明します。

塗り薬は、主に効果を発揮する「主成分」、主成分を皮膚にとどめたり、塗りやすくするための「基剤」、その2つを混ぜりやすくしたり、安定化させるための「添加物」の3つからできています。軟膏とクリームの違いは、このうち「基剤」の違いです。軟膏は、油脂成分でできており水を含んでいません。一方、クリームは水と油がきれいに混ぜり合った状態の水でできています。クリームのように水と油がきれいに混ぜり合った状態を「乳化」した状態といい、乳化させるためには、水と油を結びつける「界面

活性剤」という添加物が必要です。また、クリームには界面活性剤以外にも、水分を含むために細菌が繁殖しやすく、それを防ぐための「保存剤」や「pH調整剤」などの添加物が必要ですが、軟膏はそれらをあまり必要とせず、クリームよりも添加物は少なくて済みます。軟膏とクリームの違いは、水を含んでいるかどうかと添加物が多いか少ないかの違いになります。

水を含んでいない軟膏は、水をはじく作用があるため、水や汗で落ちにくく保湿力に優れており、クリームより添加物が少ないため皮膚への刺激が少ないという特徴があります。クリームは、水を含んでいるため、皮膚になじみやすく、浸透しやすいという特徴があります。また、薄く塗り伸ばしやすく、べたつきにくいという特徴も持っています。

軟膏とクリームはそれぞれの持つ特徴を踏まえて使い分けるようにするとよいでしょう。軟膏は、基本的にど

こにでも使用できますが、特に皮膚への刺激が少なく、皮膚を保護する効果もあることから、ひび割れや浸出液が出てジクジクしたところ、かさぶたになったところなどの部位に適しています。これらの部位にクリームを使用すると、クリームに含まれている水や添加物が刺激になり、しみたり痛かったりします。クリームは、皮膚への浸透力に優れており、硬くなったり角質層への使用、べたつきやテカリが少ないので顔など目立つところへの使用に適しています。

薬局などで塗り薬を購入する際は、これらのことを踏まえて購入してください。ただし、商品名に「〇〇軟膏」と書かれていても、クリームである場合もありますので、注意が必要です。もし、よくわからない場合は、薬剤師に相談して購入するとよいでしょう。

(北区) 薬局エビラファーマシー

松本 博志